

イスラーム・スペイン

1. アル・アンダルスの拡大
2. 後退するアル・アンダルス
3. 最後のイスラーム王国
4. アル・アンダルスの社会と文化

【コラム】イスラームの都市と文化

【コラム】グラナダ王国

イスラームの拡大(7世紀～8世紀)

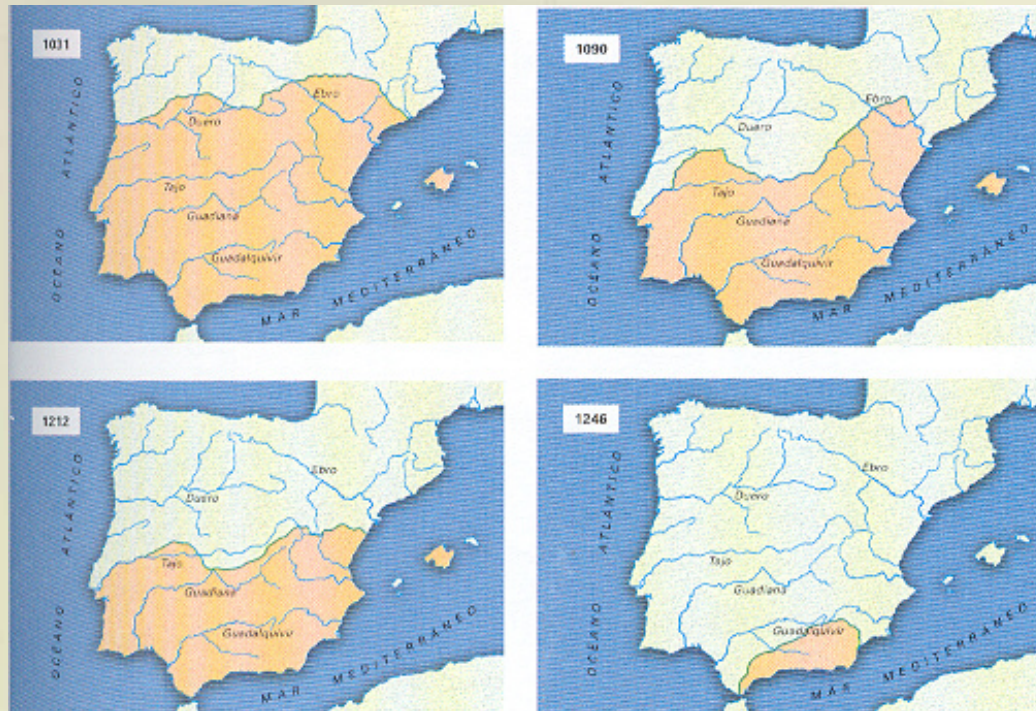


la expansión del Islam.

イスラーム勢力のイベリア半島進出(711年～)



国土回復運動(レコンキスタ)の進展



国土回復運動の終焉

- ポルトガル王国
- カスティーリヤ王国
- ナバーラ王国
- アラゴン連合王国
- グラナダ王国



1. アル・アンダルスの拡大

○アル・アンダルスの成立と発展

- アル・アンダルスの諸民族——イスパノ・ローマ人(モサラベ、ムワッラド)、ユダヤ教徒、アラブ人、シリア人、ベルベル人 ※バスク人
- 756年、後ウマイア朝の成立——アブド・アッラフマーン1世
- アル・アンダルスの一体性
- イブン・ハフスーンの反乱(880～929)
- 929年、「カリフ」の僭称——アブド・アッラフマーン3世
- 首都コルドバとアル・アンダルスの絶頂期——大モスクの拡張



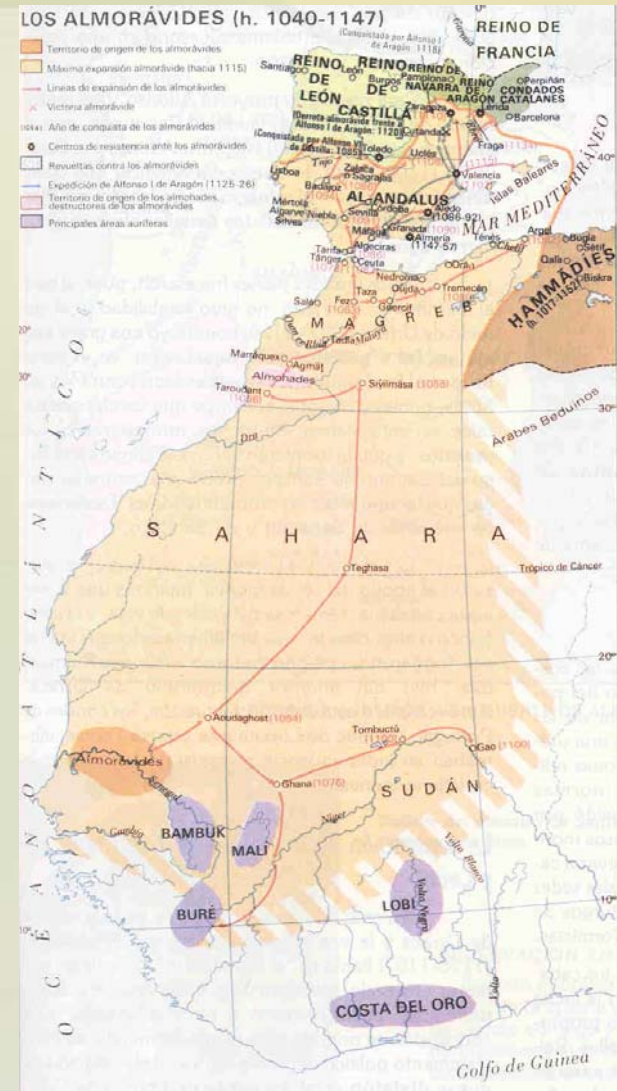
2. 後退するアル・ダンダルス

○ターイファ諸王国とムラービト朝

- ターイファ諸王国——アンダルス人、新ベルベル人、サカーリバ
- ムラービト朝——半島上陸(1086)。権力の解体(1146)。

○ムワッヒド朝

- 第二次ターイファ諸王国
- ムワッヒド朝の半島進出(1146)、ムラービト朝崩壊(1147)
- ベルベル人とアンダルス人との対立。反ムラービト運動の激化。
- ラス・ナバス・デ・トロローサの戦い(1212)
- 第三次ターイファ諸王国
- 「大征服」の進展。
-コルドバ(1236)、セビーリヤ(1248)



13世紀初頭のアル・アンダルス



3. 最後のイスラーム王国

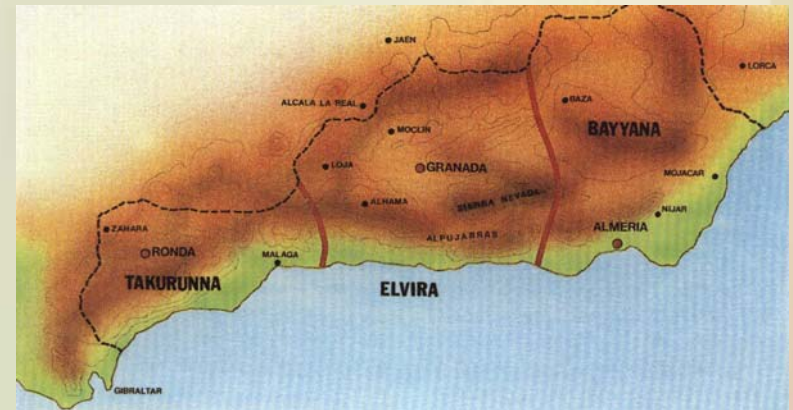
○ナスル朝グラナダ王国

- カスティーリャ王国、および北アフリカのマリーン朝との関係
- アルハンブラ宮殿の建設



○グラナダ王国の崩壊

- 貴族間抗争の激化
- ジェノヴァの「経済的植民地」
- 国際的孤立と内乱
- グラナダ陥落



3. アル・アンダルスの社会と文化

○カリフ廃止後のアル・アンダルス

- イブン・ハズム『鳩の首飾り』
『鳩の頸飾り —— 愛と愛する人々に関する論攷 —— 』
(黒田壽郎 訳・解説、岩波書店)
- イブン・ルシュド(アヴェロエス)
- マイモニデス——ユダヤ人哲学者





恋人と別れる夢を見たとき

愛しいあなたの去りゆく姿を夢に見て
私はさめざめと涙して別れを告げた
ただあなたを抱擁すると眠りは失せて
別離が偽りと知ると悲しみも失せた
そこで私はあなたを激しく抱きしめる
無理やり仲を裂かれるときのように